掌中其角發句集編二

全

掌中其角發句集

春之部

霞部

霞ぬ日ハなし〳〵江戸の春

世の中ハ梁螺も鼻を吹のはるか

明る夜乃ほのゝとをし〳〵要うぐいす

元日や月ぬ人ぬ檜ぢおと

庭竈半も雑煮を居りきり

春王正月老

生死をむすぶ一男女と水いとひ

福禄寿の賛

ぢんぢんや年弘のうしろの新法師

飛鼠入懐乃夢をひらきて

引つまるく松をらくるく嵐の那

松のちやまるさえ春の山りくく

花さのし若き尾上の春おろし

とろ〳〵とも影ホ白へ新ちつ那式

七種や明ぬホ鶏乃まつてくるを

二人静のかををの年

なつ〳〵ゞ扇ふるゝ川氏花ちの

うつるを者妻ちふ里の新菜

河州八尾坂を志ろり

うをゝひやまつのホ咲る芹花

春の水かろく能玄の多を付らす

ちとせ川　まゆみ　水や　鮫の髓

四十の賀しゐて家うて

法秘蔵よ墨をもつて　梅月分

さえ枝めやうつるや　絵ゐる　梅

等彩めんさい

やうやう秋のとうちんのとハ　梅の花

百八のうつく　逆ゆや　富のう　光

三日月の命ながや　形ゝ　ゆうれ　毒

なつかしき　ちとせ

寓　ゆう子ハ子　形りけり　三みの寓

宇宙　花は　不　孤　世　さよひなの　新

うらひも　晩　ゆ　ゝ　さらく　ハ

市隅

形と　ゆう　宇宙　寿　ゆう　竹　庫　蔵

うらひ　寿　和　嵐　ちり　申　国　ゆう　ゆう

傾城の　潤

青柳乃　那古　柳や　三日月
青柳ヲ　蝙蝠つるる　夕べ也
柳ゐを　鼓もらん　要もるし
探ヲ　やとる　紅の　曲　ほたる　狙
ふる　魚の　置ヲ　ゆるる　雀れ
月　水や　何よ　ちまま　新　海苔の　味
一升　ハの　文　流る　月　現　ふれ
ゆ　考ら　小　機の　砂も　吹たす

英代や　雪　ハ　ほる　吸　つる
格枝　絵　る　合よ
ふる　斯　釜　ふる　ふる　稲荷山
数入や　一ツ　ある　ふる　ふる　ゆ　義
文考ら　遠　花の　ある　ゆる　ふる　ふる
白河の　関ヲ　見ら　ふる　ゆの　ゆる
惜春
惜ちるや　ふる　と　義よ　ふん　風巾

をくれば千代ちすと雪の水
鄙びたるの家の垣根の
一樽は玉子を送る人年
ちりぬとも雪ぬ玉水 十とせ
杉起き畠ぬみるか雪の下
雪きえて不二のたくはを雪肥う
見めとぬつまこう猫や雪の中
猫ぬ子のうん引かや雪の際ぬ

俳諧り國 掬人とまめ奏しとうり
阿老賣ぬ名大原の里ひるを
酌とめぬ雪ぬ僧ぬ藷のたう

菜苑

黒ぬ麻ぬとぬ紙めぬぬう 去茅
阿亂のぬ道ぬとうぬんぬぬ
黄ぬ手めぬぬ
傘や 薪ぬ炭乃 炭里ぬ

ねふる蝶とかく何紙するなそ

無車馬喧

夕日影町中有らふ胡蝶うれ

蝶とふや猿とともむ京屋敷

釈菜

聖堂よこアあく蝶のたもとか

花子やあうう蝶るの巻紙新

山路をよ乙鳥をのへす入日かな

茶の水よ藝なおとて里つて先

祇子うう乙ふさに及乙鳥ふ

人うやし雑紙とる曳る犬のこえ

帆はなの乙とうおろす雲舞ふ

涉芳川浪舟

川上を春のうう先うもちもち

緑豆の乙もとるし　桃乃眉

燕干　ちちえらきとや屋の桃

勝覽をひらきて冥乃清水を汲
岩嶮の路をたどりぬれば
曲水の覽まうまを宿とす
おほくらに木兎もたり雛住
佛へ来てひなのたまや延喜殿
殿もうてひらきて雛を
乞なのけま宮殿の紙雛のさうし

河ぶちなる撫花をたづねる人す
下卧千漬味又せよ赤ねさる紙
墨染と朝彼ちらいつかこちらん
月紙ひろる絲をとりまとめ糸ちら
浦人の花紙のうつふ
ちる附を牛と買ん 磯さうう
花中尋友
餞別を人をさうをを山ちら

山さくら　猿楽　僧めくん
やまさくら　猿楽　それくく　梢うな

石河氏宜雨公の山荘あり

二ほうの角豆うすやさくら
ひまなしの絵　持参し　山桜

目黒松　隣寺　さかぬ山ちくら
浮世木の枠　ちくら
小坊主の松　かくまくく　山ちくら

永代寺池　池　犬　入おのの形の新
池　犬　間のせのれうる
るるるる　花　上野

つう　徒士　ころ　乃　条
酒　妻つま　酒　妾　那
乃　ま　形　幕　ちう
屋形　花　女中　出　乃

行露公年〻花とゆるとし逢られ
也城坊人使者の衆在水月をうる
さ松下けく〻やりくうひとり寺あり
苔よ清水この文ゆへ喧嘩買
客すきや有〻海とも浮義至
海棠の花のうたゝや おもろ月
山吹や黄玉青玉 あをそらよ
月雪よ 山吹花の素新よし

湖春城ゆ〻〻〻
清〻〻もむ短夏もあり 苔冬夢
宰府糸詣の舟中
菜のたねの小坊主角なり 亀
こゝ海おもさ御新坊人そよ岩はし
亦是とり木屋一見 花はし水
南村千調仙臺へかゝる魚影よ
切喜や 猪口と離島よ わもれ貝

夏之部

卯月八日母より送られて

身ふるうく衣のうきぬ卯月哉

ぬうくやらふ手紙もころもがへ

法師も夏の下着也 更衣

法華や犬も夏のくるしきに

夜這星鳴るうるや子規

歴くや下馬のとりふし時雨

百間長屋にて

時雨人ぬつるよ下駄打

ひやくやす一二の橋出歌時雨

阮咸う三味線とりし郭公

寮坊主のまねを洪子雑

たちぬき蓑ぬぎみる時雨

夢よ来る母が一の屋をう郭公

おもしろし家や嵐不ぬれ蓑

子もふ戸すゑ枕も始まる蜀魂

桑名にて

蛤蒸やうれ事ぞ哀やかなしすれ

うれまうして秋の鳥やはたきれ

隙漏れ月不奇なりかなしれ

人間の月小夜まれ和なれ

月消く後ぬけ風呂やかなきす

子規きく有明さらぬ義

帆とをる沢毎に松魚の磯かれ

雉鳴や弥生已日の道者なる

浅野家義士墓をまうむ

沢潟や幾を引ちりかなつれ

杜若夢へうれまるあるまてを

かきつばた女夢結ぶかなりの

むらさきの咲もあるり杜若

ぬしなれ花朝精をの咲まを

筆よ作りそりおくよ大あるせ

大町亭法會

法のうめ筍羹皿もかくこの紀

寄幻呼老老

老僧玄筍をうむちうみさうな

うう弁や鞍ひわうぬる箱根山

常合羽うろうしや浮世夏玄仏

みしう釈や行るまりり乃納屋の声

水賀入湯のこ孫

ちはしやつ苗ちうふちの門

田植まうく水茶屋するう角田川

合羽着て友と形へき田植なな

ちちぬの幟甲や庫のうち

幟うう長者ぬ羽や恵牡丹

きる手元ゆるひ見とりりもあやめ

根合や法泥こひうた花　笹

廻文

けさたんとの名やや菖乃冨田酒
蝙蝠幅出屋もふになれあやめ葉
粽うん訳ヨ月あて紙のあり
ちまき文字ふたらうや蓮の紫分縫

午の年午の月午の日午の時うけふへ
競馬　時午入ヌのいさこう
五月五ホやうう吉野と出ぬ七

五月五の酒匂ふくるる初茄子

腰越

篠すゝき文屋の月と義経の五月雨

傾廓

八重桜やちるこのさるまい虎う雨
風ふうぬ恋の志川くやかなこ多
吐ぬ鶯のほもくるより西新篇新

杜國追悼

羽織着て帰るとて
朝日より七里出るより名古屋鮓

湖舟鮓より酒たうて
貫之の新のすゝふかのれ式
紙新乃鱧なつの末みやこ式
文屋と四ツ目ふいたの光の那
夜川より巻より仕出す笑子式
ゑ清水より源のさのれよ這やり

臺なるゝ宮のゑ
妾ゑ家まるよ
伝流まゑゑ人
梁の槌式おゝ
槌ゑゝハ一芸
逐歐陽公賦
蝿の子ゑ式舜
蝿ハ名のりを
ふ家告やゝん
人式俳
ゑ
ゝ乃うゝん
ゝん箕式菊
式ゝさ時
盗人式中

一晶の庵訪ふとて
日蓮上木すゑに蝉の鳴きしを
空谷に声をきく折柄れ
我も谷も秋も ぬらしけり
蝶々しき秋のむかしや世の夢
うつせみの殻に
夏虫乃 碁よころれたる命かな
せうしゆふ夜さへ実さへ陳皮之

望相州
雲ゐる子ちとはなり日々照れ
谷露を菖蒲を川價々れ
祐天和尚にやす
夕良にはやきをかさき賣名号
申ふはなき雛垣根らし
酒満
葛飾の酒典寺も二面

藻の花や　金魚ふるひ　ふるいよ　簾

霊夢　感じて　東湖　無戈　天よ　指竹

出ぬ菜屋よ　欺　てもさち　まうる

荷切や　下手　ぬし　切た　芝や　角

森てうと　茎　年　竹そふ　乾　者

滝雲　弘　香ふ　杉乃　あしや　知　影山

亀毛よ　餞

うりの皮　ゑ　ゑ　年　とかさ　ひり

瓜　よ　ゑ　ぬ　瓜　の　ち　く　る　瓜

ひし　瓜　や　う　む　き　て　手　に　蛩　小　瓜

う　く　森　や　抑　屋　ふ　似　る　去　月　か　し

樟　脳　年　代　瓜　ち　栄　の　猩　る　る

雨　元　る　る　の　ふ　か　ち　く　く

夕　立　や　田　を　見　め　ら　り　弘　神　る　ん

ゆ　ふ　ち　ち　よ　営　る　ゆ　り　く　時　る　青　う　瓜

夕　ち　ち　や　家　を　め　ち　ち　多　帰　家　暗

高圓挽涼

香薷散犬うゑ初めて雪の峯

西行と武藏坊とも清水あり

元角田川午田とふ所とも

いとすゝ清水なりけるを前橋

清澄の渭の判淀とといへれて

此端を一荷に丹ちん氷を

乳の先を清水うりとの祭うな

加ゆ[illegible]

山殘り新雪の霜のなりさうあり

端うけの棚干あつし昼八ゆ

偽の扇持し扇ゑ

朝比奈の乘屋へしあつさあり

すゝ多泥めりなし避うち

涼住む安房や上総よ舟を造

子人う手代棚干や搖もゝ

人まゝ暑い新ありけ　まく見

自棄

たうとめて　起ひるゝ　夕すゝみ

菴の留守

すひつゝへもこゝ　ふ　裏乃　蓋　俵

谷木（ウ宗）の鬼　ゝ　おそ　それ　こゝ　笛

市中の光陰　ハ　ゝ　たい　ゝ　かき　ゝ

秋　ゝ　ゝ　ゝ　太鼓や　裏　祇　乐

秋之部

詞書畧

空や　妹　蚊　屋　ゝ　ゝ　ゝ　七多羅樹

夕　ゝ　ゝ　宵　暁　ゝ　ゝ　高　見　ヒ

ゝ　合や　女　ゝ　ゝ　ゝ　歌　ゝ　ん　む

星　ひや　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　焼　苑

比　殿　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ひや　雙　林　塔　乃　玲　の　ゝ

露橋や夕ぐれ寒の星蛍も
あるは川ゆかんさしや一志あり
大切や秋を明るの川
菖蒲や角豆も星ぬ玉ゐ殿
明星や秋の海は鞠ゐくろ
七夕歌尽しや明の紙
引水や数ゐくりを磬ゐ傘
水の珠ひと系ゐちくおさき

松たくを咲ゐ之ゐ花ゐとゐんまりて
めさの本八仙洞様ゐ いのちの邪
松負年志ゐれし人や髪帽子
めさゐ母ゐ明宿出し 御使
猫睛ゐ雷朝負ゐいさゐ
何さゐ松ゐ日陰まさゐり中老女
増上寺晩景
る老ぬ焼篭使ゐ至しゐ鹿

右二句文有畧

むまつり門の元食出　親こそ受

きちかふこゝ人や蓮の　あつまつり

柳絮やこゝ乃あ[illegible]の水

生霊酒ゝらぬ親父の那

親もゝもきこゝ[illegible]蓮う

分郊原

みそゝゝや分限ゝ[illegible]鬻

とゝう戸ゝ害ゝゝ酒ゝゝん

伊勢の鬼見ゝしゝゝ踊り

お撲素や髮月代ゝ[illegible]

弟のゝゝん女もゝ[illegible]札

精さゝゝも逆櫓も[illegible]火奏

妻ゝおゝれて後子ゝ[illegible]人

いかつゝや出ゝゝゝ[illegible]

石藏寺對僧

多小提し茶瓶やさめて苔ゐる
雲ゐ行方や海苔かう原へ　雪原夜
雪汐淵り干ぬかゝてすゝの浦
きを里小路の忠守ホまとのうゝ
雪雨を尾ぶうものよ朝ゆけ
めさかり年一の名所や　波ゐる
　暁松亭
獅子蕣の胸ゆうよけれ庭の萩

松ゐうや雪花景を不二風
孫路のゆうゐ行ゆうゐ
たのしこゝゐ結孫を
夏ゐうゐ杉子をのゐ嵐ゐ
杉子のゐをけるとゐ
つゐゐゐゐみゐ
もゐし後飛ゐ
鶏ゐや杉ゐゐ

清閑寺

[illegible]なる畑芋哉

[illegible]なる男の雅つ[illegible]

西瓜[illegible]奴の[illegible]なるもり

[illegible]畑の芋[illegible]伏猪[illegible]

涉茅[illegible]

[illegible]の骨[illegible]

亡父葬送場[illegible]

一[illegible]も脱[illegible]那

酒[illegible]盃[illegible]阿[illegible]

詞書を畧す

陣中[illegible]脚[illegible]の[illegible]

順檢[illegible]百舌[illegible]声

餞秋[illegible]

諸[illegible]目[illegible]

仁[illegible]の[illegible]山[illegible]

小[illegible]

四十のゝ小秋の中山五十のゝ
中村少長文婦連て上京せし時
山ぶも人ゆうゝやむ旅疲れ
はハゝもおるの花ゝ笑かゝりゝ
麻の一束とゝふ小哥のさんな
文のことを雅の情を花て荒のこゝ
さゝゝのや孫きさゝ忘ゝ此あのれ
夢ゝ山遠なゝとしゝのまゝゝ

寂蓮

和哥の骨槙ゝ川山の松ゝ尾ゝ
あゝゝゝ雲尾上の杉とゝれまゝゝ
点取ゝこゝゝる懐紙のゝくゝ
二老丁目ゝ花ゝしゝゝ砧ゝ
みの孫ゝ入ゝゝ
ゝゝぬゝきゝん孫ゝ屋敷　志津屋敷
紀川ゝくゝゝも花ゝ

たつの弓矢すりあらや　三日月
池水も七分ふかあり　宵の月

雲井よりあまもの画よ

傘持ハ月よ後ろ　すのこ也
小ゝ〻のり加ゝ月や　水石潟
めつゝふゝ

更ゝと祢宜の　鼾や　杉乃月
月出ゝ　雲吹うゝむく　小舟ゝ

遊子

いなかなる松のかゝしも江戸ゝ月
唐帰や弓弛ゝられを　昏乃月

長柄文臺之記

かゝる月もむかしゝ楊の朽目かれ

仲麿画賛

月影や　舌を帆よまく三笠や戸
月をかゝれ越路の小者　庚子の下女

うるはしなる波に茅屋守る高殿哉

滿百

ありあけの月にかすむ山ぶり毋弘新

在明や待歌かすむ君と伯父

所思　京にて

いとぬるみ三つみる名ありけり月

鯛を苦に江戸に生れてうの月

まらうどの戸さすも侘しきの月

平家諸の遁屋に

宿かりし月見哉

とりの屋に九盃ぶる月見哉

葉ふるひ荷へ新人て

名ゐる敵ふるひ世話

めいりや人を抱る紙膝ゐり

鐘声客船

やへ雲やゆ御堂の太鼓ゐて雪

名月や古とも芋を屠られ
めさらの童は扇にうるる画は
冥守の仏面彫まや　栗の戸に
山川や古を名は毬をなうう
吟の栗は猫の猿のわもひ
栗賣の玄冥へのる家宗居る船
崖栽遊喰
清滝や古は柳さらは象こころ

種竹三竿
作弦許由ひさまきまし
茸や清幸のあるれ眉つくも
茸狩や山ふかるさは虚労病
鳳来寺の山弦多とるる時
冷泉の孫数有つなぎる茸の船
松の窠糸七の火先為薄醤油
川芎弦香ならるや谷水

笹ねこそや蟹をとる葉の中
麥蒔ふ稲干ふ手織ぶ
太郎二郎の貝をとりく
かゝ出ぬ貝ふめくちゆ新酒ぶ
なるうゝゝ鹿もみるゝん鳴子曳
七十の腰もそゝすうちこ引
雞の下繁つゝゝり菊のさく
いさぬけの庭や陀摺菊乃花

荷分う後者短冊ひうに
土器の手ゝゝゝんをゝやうゝの菊
きふのさく小僧ゝちるゝ片ゝ好
きく子香や瓶ゝうゝ新水年追
ふ雞ぶ碁石ふちりぬ紅くの寿
雨ゝし地ふ這ふ業ゝ先ふん
こハ詩ゝ面の子ゝうゝ袋きく
三島ゝて重陽

門酒や百屋ゑびすきの業平と
宮川きんかうの酒造られて
重箱に花をさしたる雅菓子
女の子ねうひきまうける人ふ
かよ屋ふらふ笠の妹の那
親を菊十日のさく城のひとり
震妻の踊りもかもとな菊膾
翁さび業の交むり伊をうり

のちの月 踊の笠 白 傘
白露の蓑ぬくうを 後乃月
いつまもたをとのるふよ
後の月 松やさ松うう 江戸弦屋
ふふ子をふふくよふふや後の月
家こかつ木立も寒し 弦ち乃月
三条橋上
片腕ハみやこのの寺 百業の那

もゝちよはたらをへる酒のかん

山姫や染こゝ流もゝちゝ式

箕根

杉ぶち人ゝ見るそ見へ来る村雨哉

もゝちゝ見る宮影の子盆うゝ川岩山

大山

腰押や雨ゝ岩根やゝ下もゝち

山ゝ面や初もゝち

うゝの山の弦よ

笈の角稍や苔所ゝ雨ゝ

白扇倒懸東海天ゝ見る句をつよ

伏頂所対ゝ山ゝ振ゝ

雲の西年切屋や普賢不二

怨国離

傾城や小ゝ山ゝ九月哉

丁鹿虫とゝ山ゝ

冬之部

玉津島にて

はつかの居平中おくなりにてあつ
ものの旅酒句を格と家よりり

遊金閣寺

八重ゝ桜 楠の板戸ゆるゝ
蓑を着て 鶯をすゝめ夕時雨
むらゝ山ゝを三稿の近きをひり

宋八幡宮参詣うしろ遠の那
神鳴 まとゝ小きりし 雲の那
今熊を 山ゝ 山なを 色
とゝ名ゝ 山るかゝ さのまり
ゝ山ゝや ゆりし 厠 ひとつ 松
ありしろき人を ひ出を時 面 船
鳴む 物ゝ 茶 城中 ゝ 花 山ゝ 遠 水
ゝ山ゝし 沖ゝ 山ゝ 山ゝ 山ゝ

霊山のこちらあてく
かアきりの尋常有死ぬ枯野かな

画賛

松一木乞食の杖葉のかゞ形
捨人やあてくこの花うゝ冬牡丹
糧寒や汝何を思ふ金のうち
鶴叟老父七十の賀ゝ
石川氏浪をのくえや桐火桶

すゝかアや燒何ぬ者え猿の声
蛇のうつを見とゞ置みして部屋と
名つ者ゝうゝよりて
炭うゝを炭こそそのれこゝ
幻住庵有て
雑水仕名ゞを張すゝ冬こゝを
雪月朔日の例を
徒人や嵐芝を冬こゝり

鶏見せや　暁いとむ　下邸橋

山ちから森のめるあらし月寒し

多川や　茂れすゝかる　草の原

立厩

冬枯の　足下をかきんなるとあめ

冬茶くゝ　案山子にとる　烏ぶ

冥ちるの　波子も　矢うな　束弓

縫ゐく　茶　帝子　よいきん　嵐義の冬

胡ゐ　し　馬の目　ちり　つきん　邸

柯永老人の手向

山茶花や　猫も　ゐ　ちる　おきりの

日本の　風呂　ふ　と　比叡山

かふ汁の　素　ふ　ちも　朝ハまき

蕎麦

茶の湯　ゆ　ち　ぬ　ひ　ち　汁

張つ　て　又　ゐ　ん　や　納豆汁

不昔乃　冬　も　か　ま　茶　ふ　や　水の　茶

山犬を引ふ嗅ぬ寺 志賀教うな
蟻ぢをふ匂ひのとるや 東武の業
ふるこそれ拾の苗代 七日市
みそれかも分いあるへくり 沢乃鶴

宿僧房

あるこたち閼伽の打敷 冬菜式
新次へ何〳〵袴をそ〳〵 衣柄の船
武蔵野や富士の裳乃ぬきとり 後

狭地ぬそれと初〳〵やふくと汁
手をそ〳〵いふ〳〵丹くし 能の面
何〳〵後もそ〳〵ふ太 屋敷 古簾

貞徳翁五十年忌

帯ときも長たち形の昔か那
むつ〳〵子ぬそ乃夜八寒し 虎ふ許
ふ也や 釜そ〳〵ゆ〳〵 浦ちとり
なそ日和ま月ぬ乃 むつ〳〵ふ島

十石堂鶯小法く形り 鶯安寺
初瀬の新堂の鶯の毛を引抜んと
鶯社 毛や鶯の 衾なん道 ゆきけ
春ゆきの乃 猶ゆきも 彼のゆめこの松
ひとゝ常のなくと思ひたゝく
たゞとゝ 孫組 ゆきんく 里 祢宋
秋祢宋や 鼻息 ちろき 面のうち
ゆゝ 雪年 氏 小夜ゆき 何ゆゝ

初瀬ハ 盗人なるめの那
初ゆきやうちなる人を 雅
雪ゆゝ 新堂の 新出 色
弓 ゆゝ 雪ハたし 雪の宿
ゆゝ雪ゆゝ川 ゆゝ雪ゆく
半 祢の 湖 時も ゆりや 雪の松
鶯川 雪 鶯 ゆ 狭 鶯 ゆ 雪ゆ 家
軍兵 祢 雪 雪 ゆ ゆ 雪 ゆ

秘蔵の鶴の落くるを見て人よ
墨染よ法師や　雲うから
酔あくる　月をうとき酒の味
雲に立たかさも蘇鉄の女哉
不分當春作病夫
酒ゆゑと病をさめる　師走哉
極密
さためよの遺精もつゝし密の水

俳諧稿を捨ぬそ固と　鉢　設
密会俳諧をこゝ面れ　何とのうも
蕉翁ハひらきの隙や　密道も
前事ひやはをこちらとさし乗
忠信ゝ芳野　まひや　煤ちひ
鼻紙掃孔雀弘玉や　燥あり
愛者ゝ　明日餅法のうと我病り
餅を粉や　灯ちて　碎ちの　かも

弱法師　しの門西行を供養札
象ら　松たき　市の夕かすし
ものくるしや　路評定　歌明まき
三井西鶴建の自画賛
今あるか　因十郎や　鬼魂外
古女房の　ものくてちのし　得方丸
山玄琴より　破方ものかたりまりて
雅りのとの　大角とりはれ

江戸本石町十軒店　萬笈堂英平吉藏

其角發句集　二冊
嵐雪句集　二冊
蓼太句集　六冊
俳諧文集　蟹守大人輯　高附言名の俳人の文纂輯　二冊
發句古今撰　同輯　附葛里連句集　三冊
俳諧新五百題　護物大人輯　二冊

新五百題後編　同輯　二冊

發句類聚　蓼松大人重校　二冊

發句類題　雪中菴大人輯　二冊

發句五百題　白雄房撰　二冊

俳諧意のまゝ　葎雪庵北元大人輯　二冊

（古の歌を見て　雪まの梅　意の新なるを求ふ）

俳諧多姚灯　雪まの書　二冊

油の〳〵　雪まの懐中小本　一冊

俳諧四季名奇　懐中本　雪まの撰　雪まの大成　一冊

俳諧雪まの伝授　懐中一牧撰

萬葉用字格　春雪上人撰　万葉集のこの形　一冊

定家卿の形色　一冊

今古二の形世　言井八猿大人撰　折本　一冊

尚古の那世　山本明清大人撰　折本　一冊

對照の形世　芳渡る大人撰　折本　一冊

音便撮要　素堂上人撰　懐中本　一冊

子鳥の跡　中臣親満大人撰　一冊

此の古を色紙短冊天の書ふとも臨況弦
もちいる古人の志筆ふうふうしいふ